



R. I. 第2630地区 高山中央ロータリークラブ
WEEKLY REPORT

2008～2009 年度 高山中央 RC 会長テーマ「ひとつの心で」

◆会長 三枝 祥一 ◆幹事 足立 常孝 ◆会報委員長 津田 久嗣

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市花岡町 1-15 丸越商事 4F
TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488
◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600
◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～
◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席	Make-up	出席率
本日 767 回	47 名	42 名	32 名	—	76.19%
前々回 765 回	47 名	42 名	35 名	6 名	97.62%

<点 鐘> 会長 三枝 祥一

<ソング> それでこそロータリー II

<ビジター&ゲスト紹介>

国際ロータリー第 2630 地区

岐阜県濃飛分区ガバナー補佐 長瀬 隆様
高山市教育委員会学校教育課主査 佐藤 義晃様

<会長の時間> 三枝 祥一

「子ども虐待」

昨年度の子童相談所に対応した虐待件数は、全国で 4 万 600 件あまり、岐阜県では 530 件、飛騨では 41 件、毎年 1 割以上の増加で増えています。

なぜ増えるのかといいますと、家族、地域社会の変容→養育力の低下に加えて、平成 12 年度に施行された、児童虐待防止法により虐待が疑われる事例では、守秘義務より通告義務が優先されることにより増えていることもありますが、今、子どもたちの環境は、決していいものとは言えません。

虐待にはどんなものがあるかといえば、

- ・身体的虐待・・・
- ・性的虐待・・・
- ・心理的虐待・・・
- ・ネグレクト（育児放棄）・・・

などの種類があり、その多くが身体的虐待とネグレクトであるといえます。

又、誰から虐待を受けているかといいますと、両親とりわけ母親からの虐待が大半を占めています。

では、なぜ虐待が起きるかといいますと、

1. 保護者の生育暦の問題
2. 家庭の状況
3. 社会からの孤立
4. 子ども自身の問題
5. 保護者と子どもの相互関係

これらが複雑に絡み合っるといわれています。

虐待が疑われる子どものサインは

- ・不自然な傷が多い
- ・夜遅くまで外で遊んでいたり、徘徊している
- ・夜間に何時間も外に出され、家に入れてもらえない
- ・身体、衣類が非常に不潔である
- ・常におなかをすかせていて、与えると隠すようにがつがつ食べる
- ・表情が乏しい
- ・極端に痩せていたり、身長が非常に低い
- ・親と離れると表情が晴れやかになる
- ・家族のことを聞くと不自然な答えが多い
- ・言葉遣い、態度があまりにも丁寧
- ・子どもの泣き声が毎晩のように聞こえる
- ・子どものたたかれる音や子どもの叫び声が聞こえる

以上のようなものが考えられます。

虐待が疑われる保護者のサインは

- ・子どもに体罰を加える
- ・子どもが怪我をしたり、病気をしても医者に見せようとしない
- ・小さい子どもを置いて頻繁に外出している
- ・教育について拒否的であったり、食事をきちんとさせないなど放置している
- ・アルコールを飲んで暴れることが多い
- ・地域の中で孤立しており、子どもに対する他人の意見に被害的、攻撃的になりやすい
- ・子どもへの態度、言葉が拒否的で冷たい
- ・自分から子どもをしょっつちゅう叩くと言ったり、なつかない、可愛くないと言う
- ・育児について知識がなく偏っており、子どもの扱いが不自然である
- ・親が大声で子どもを怒鳴ったり、叱る声が聞こえる
- ・子どもの前でDV行為を行う

こういった行為を見たり聞いたりしましたら、確実になくても、疑われるだけでも警察か飛騨子ども相談センター又は、市役所子育て支援課へ、速やかに知らせてやっていただきたいと思います。

<幹事報告> 幹事 足立 常孝

◎国際ロータリー第 2630 地区 ガバナー事務所より

- ・ロータリーレート変更のお知らせ

9月1日から1\$=108円

◎国際ロータリー第 2630 地区 直前ガバナー事務所より

- ・2007～2008 年度地区資金収支報告書

- ・直前ガバナー事務所閉鎖のお知らせ

8月末をもちまして閉鎖いたします。ご支援とご指導御礼申し上げます。

◎米山梅吉記念館より

- ・館報 12

<NHK プラネット中部支社より>

- ・「講演会のご案内」の送付

<本日のプログラム>**青少年・新世代委員長 渡辺 修治**

本日は、私ども青少年・新世代委員会の担当例会でございます。何をすると良いかを検討しておりましたところ、私ども、青少年の健全な育成に協力したいと思いつつ、具体的には何をどのようにすれば良いかなかなか見えない状況でございます。そこで今回は教育現場の声を直に聞かせていただいて、そちらをヒントとして青少年の健全育成の有効な一助となることが出来るようにと考えました。

そこで本日は、高山市教育委員会・学校教育課主査 佐藤 義晃様に講師としてお越しいただきました。

**<ゲストスピーチ>****高山市教育委員会****学校教育課主査 佐藤 義晃様**

現在は、一之宮の教育研究所というところに勤務させていただいております。現場の先生方が子供たちとより良い教育にあたっていけるような補佐をさせていただいております。

今日はキャリア教育ということで、職場体験学習を中心としたお話をさせていただきたいと思っております。

「キャリア」と聞かれると皆さんどのような印象を持たれるのでしょうか？エリートといったイメージを持たれる方もあるかと思いますが、ここでは児童・生徒一人一人の勤労観や職業観を育てる教育という意味になります。わかりにくいですが、働く意義をはじめとした様々な価値観を児童・生徒に与えていくという教育といえると思っております。

国からは、社会がどのように変化しようとも、自らの課題を見つけて学んで主体的に取り組んでいくという、そうした子どもたちを育てていくという方向性が示されています。

昨今の著しい社会変動の中で、子どもたちが生きていくことも非常に大変な時代ではないかと思っております。そうした中であって、子どもたちに生きる力を身につけさせる、あるいは社会人・職業人としての資質や能力を身につけさせるべく取り組んでいるのが、キャリア教育と言うことになります。

ちなみに、キャリア教育は文部科学省だけではなく、経済産業省や厚生労働省が協力して推進していることをご存知の方はおられますか？実はキャリア教育は国の施策として進められております。身近な取組みとしては、職場体験学習などがこれにあたるもので、皆様方の事業所にもご協力をお願いさせていただいているかと存じます。

現在は「キャリア・スタート・ウィーク」ということで、これまで3日間程度であった職場体験を5日間として取り組んでおります。職場体験は4～5日目が最も子どもたちの印象に残ります。こうした職場体験を通したキャリア教育は全国的な広がりをみせていて、高山でも今年度は市内の全中学校で、できるだけ4～5日間やろうということに取り組んでいます。

児童・生徒をできるだけ希望の職場・事業所で職場体験させていただき、高校でのインターンシップなどにつなげることで、子どもたちの職業観や勤労観の育成に役立つものと考えております。

現在、商工会様などのご協力をいただいて、受け入れ事業所リストを作成しております。こちらにご登録いただければ、直接学校から職場体験のご依頼が入る仕組みとなっております。高山の子どもたちは、ぜひ高山の事業所でと思います。お仕事の都合もあると思いますので、受け入れは1日だけでも対応可能です。キャリア教育は国の施策であり、高山市も子どもたちに働く意義をつかませてあげたいと取り組んでおりますので、ぜひご協力をお願い致します。



<質疑応答>

伊藤 正隆

Q：岐阜県では、ロータリークラブ全体を通して青少年育成に力を入れていこうという取り組みをしておりますが、5日間の職場体験のほかに会社の社長が地元の中学校を訪れて講義をするというケースも聞いたことがあるのですが、そうした取り組みもされておられるのでしょうか？

A：職場体験の事前事後に進路講話ということで、そうした時間も設けております。ガバナー事務所様の講師派遣リストにある方々は学校にご紹介済みですが、登録されていない方で短時間なら話に行っても良いといった方がおみえでしたら、ぜひご協力をお願い致します。

村瀬 祐治

Q：フリーターやニートなど、子どもたちの仕事への思いが薄れている。キャリア教育はこうした状況に具体的にどのような効果があるのか？

A：小学校から高校と、幼いうちから親や社会の姿を見る、あるいは体験することで働くことは社会に貢献することだという意識を徐々に身につけていく。体系的な取り組みを通して、より良く生きるという、生涯にわたるキャリア教育になると考えています。

永井 信次

体験学習を受け入れた経験から・・・

子どもたちが学校へ戻ってからその体験を発表する機会があると、職場体験がさらに意味のあるものになると思いますので、今後はそんな取り組みもしていただければと思いました。

新井 信秀

体験学習を受け入れた経験から・・・

現場の都合として、朝礼の時間や現場から戻る時間を考えると、子どもたちの体験学習の時間に合わせることに苦労します。危険性もあるので、今は受け入れも高校生に限定させていただいていますが、1日だけでも体験すると翌日の子どもたちの態度も変わるので、1日だけの体験でも効果はあったと感じました。



中田 専太郎

体験学習を受け入れた経験から・・・

修学旅行に来る子どもたちの体験学習を受け入れています。最近では突然明日から受け入れをという連絡を入れてくる学校もあれば、生徒が体験に参加せず、外で喫煙をしているようなこともあった。受け入れる側として、依頼する側のモラルの低下が大変気になるところですので、そうした配慮もお願いしたい。

<ニコニコBOX>

本日は大変お世話になります。貴クラブの益々のご発展を祈念致します。

岐阜県濃飛分区ガバナー補佐 長瀬 隆様

岐阜県濃飛分区長瀬ガバナー補佐様ようこそいらっしゃいました。例会後のクラブ協議会よろしくご指導お願い致します。また本日のゲストスピーカー高山市教育委員会の佐藤先生よろしくお願い致します。

理事会役員一同

岐阜県濃飛分区ガバナー補佐 長瀬 隆様 本日もご指導よろしくお願い申し上げます。又、小さい頃から良く知っているゲストスピーカー佐藤さん、スピーチを楽しみにしています。

三枝 祥一

岐阜県濃飛分区ガバナー補佐 長瀬 隆様 遠い高山までご苦労様です。本日はよろしくご指導お願いします。ゲストの佐藤さんのお話、楽しみにしています。よろしく申し上げます。

平林 英一

9月の声を聞いたとたん、今朝の風は肌に涼しさを感じました。これから色々行事がありますので、体には十分気をつけながら頑張ってください。良いことがあったらニコニコへ！！感謝を込めて発表させていただきますので、よろしくお願い致します。

松之木 映一